

2. 循環器内科コース

第二内科部長	近藤 史明 (指導責任者)	日本内科学会認定総合内科専門医・指導医 日本循環器学会認定循環器専門医・指導医 日本高血圧学会指導医
医師	濱田 知幸 (指導医)	日本内科学会認定内科認定医 日本循環器学会認定循環器専門医
医師	桑原 昌則 (指導医)	日本内科学会認定内科認定医 日本内科学会認定総合内科専門医 日本循環器学会認定循環器専門医 日本腎臓学会専門医・指導医 日本リウマチ学会専門医・指導医 日本老年医学会認定老年病専門医・指導医
医師	高橋 純一 (指導医)	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会循環器専門医
医師	竹中 奈苗 (指導医)	日本内科学会認定内科医 日本循環器学会認定循環器専門医

【一般目標：GIO】

循環器専門医取得を目標として、循環器系急性期疾患を中心に診療技術を研修してもらいます。また、研修期間中の日本内科学会認定内科医取得も目的としますので、幅広い内科知識も身につけてもらいます。

【行動目標：SBOs】

- ① 循環器系疾患の診断、治療、管理に関する知識・技術を身につける。
- ② 循環器系救急疾患に対する初期診療能力を身につけ、検査、治療に必要な技術を習得するとともに、慢性期に移行した患者の管理における薬物療法、患者指導能力を身につける。
- ③ コメディカル、パラメディカルと協力したチーム医療を身につける。
- ④ 日本内科学会認定内科医を取得する。
- ⑤ 日本循環器学会専門医を取得するための研修期間とする。

【取得可能資格】

日本内科学会認定内科認定医
日本内科学会認定内科専門医

日内科学会総合内科専門医

日本循環器学会専門医

日本老年医学会専門医

【経験目標症例等】

① 症例数

受け持っていたく症例数は決めていません。重症度・特異度によって変化しますので、状況に応じて対応しましょう。

■冠動脈疾患

急性心筋梗塞を含む急性冠症候群は年間百数十例です。

カテーテル検査を目的とした、比較的安定した狭心症は数百例です。（下記、検査・手術件数参照）

■心不全 心不全を主病名として年間約二百例が入院されています。

■心筋疾患

■不整脈

■弁膜疾患

■大動脈疾患

■成人の先天性心疾患

■心膜疾患

■全身性疾患

（一部の）脳血管疾患

② 手技等

■心電図 適宜入院患者の心電図読影や人間ドックの心電図読影に従事しています。

■負荷心電図 マスター負荷心電図は、生理検査技師が毎日行っています。トレッドミル負荷は随時行っています。

■心エコー

外来枠は毎日午前中に行っていますが、検査技師と共に年間 3000 例以上をこなしていますので、マンパワーに限界があります。あなたが加わることによって、さらに症例数をこなすことができるでしょう。

経食道心エコーもモチベーションがあれば十分習得できます。

頸動脈エコー、下肢動静脈エコー、リンパ浮腫は検査技師が心臓血管外科の医師と行っていますが、希望があれば技術習得は可能です。

腎動脈エコーも検査技師と共に行っています。

■ホルター心電図 適宜施行しています。

■脈波 適宜施行しています。

■心臓カテーテル検査 (CAH+PCI)

PCI を含む年間の件数は 600-700 例です。

ここ数年の PCI の件数は 250 前後で推移しています。

基本は診断カテーテルの技術習得ですが、将来 Interventionist を目指す方はオペレーターとしてひとり立ちできるよう研修していただきたいと思っています。基本的に診断カテーテルは、主治医がオペレーターの方針ですので、指導医が安全に手技をできると判断した医師には、年間 100 例はオペレーターをしていただくことになります。

■心臓電気生理検査

当院は、頻脈性不整脈に対するアブレーションと ICD 植え込みは行っていません。

よって、EPS は徐脈の精査が中心になります。

年間数十例行っています。

■恒久ペースメーカー植え込み術

新規・電池交換例が年間 30-50 例で推移しています。積極的に術者になっていただきたいと思います。

■末梢動脈造影検査、カテーテル治療 (EVT)

今後増加すると思われる領域です。

診断カテーテル及び治療適応について習得して頂くことになります。

【その他特色】

1 年目は病棟主治医と救急当番が主になり、その後、外来診療も行うようになります。症例毎に上級医がつき、診断・治療を進めていきます。週に一度、全スタッフが集合し、カンファレンスで各々の治療方針などにつき検討もします。

また、緊急カテーテル等はチームで行うことから、夜間の呼び出しもしばしばあり、体力とモチベーションの維持が重要となります。大変厳しい研修になるとは思いますが、当コース修了のあかつきには循環器系救急疾患に対する診断、治療に関して専門医に必要なレベルになっているはずです。